



生活難ト出産率ノ減少 : 建部博士ニ答フ

津村, 秀松

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 14(1):49-66

(Issue Date)

1913-01

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051970>



生活難ト出產率ノ減少

(建部博士ニ答フ)

神戸高等商業學校教授

津村秀松

一
昨年十月東京ニ於テ開會セラレタル社會政策學會第六回大會ノ第二日目ニ、私ハ生計費問題ニ關スル報告者ノ一人トシテ、誠ニ簡單ナ報告ヲナシタ、其ノ際其ノ報告ノ一節デ、次記ノヤウナ論旨ヲ述ベタノデアアル。

近頃西洋諸國デモ、生活ノ困難トイフコトガ、ダン／＼廣ク且ツ深ク感ゼラルルヤウニナツテキタ。ソコデコノ生活難ヲ感ズルトイフコトガ、新シイ時代ノ思潮ト相俟ツテ、其ノ之レアル社會ノ結婚數ノ減少、竝ニ結婚數ニ對スル出產率ノ減少ヲ招キツ、アル。シテ見ルト、我國デモ、早晚、同一ノ原因ガ、同一ノ結果ヲ齎スヤウニナリハシナイカト思ハレル。

私ノ報告ガ終ツテ後、同日討議ニ入ルヤ、討論者ノ最後トシテ立ツタル文學博士建部遜吾君ガ、私ノ此論旨ニ對シ、異議ヲ挿サマレテ、大要左ノ如キ駁論ヲ述ベラレタトイフコトデアル。

人口ノ減少ガ、生活難ト密接ノ關係アルカノ如ク論ゼラレタ津村說ニハ、全然反對デアル。人口ノ減少ト、生活難トハ、無關係デアル。佛蘭西亞、米利加、濠洲等ニ人口減少ノ勢盛ナルコトニ照シテモ、之ハ明カナル所デアル。(大西猪之介君ノ筆記ニヨル)

建部君ノ反駁ガアツタ時、寸度、私ハ他カラ招カレテ、外出中デアツタガ爲メ、議論ヲ聞キ洩シタシ、又直ニ其ノ席上デ御答ヲス可キ機會ヲ逸シタ。外カラ歸ツテ來ルト、唯今討論ガ終結シタ所デ、ソシテ又唯今建部君ノ私ニ對スル駁論ガアツタ所ダト聞イテ、私ハ非常ニ殘念ニ思ヒ、且ツ自分ノ報告者トシテノ責任ヲ盡シ得ナカッタコトヲ恥ジタノデアル。

然シ此儘ニシテ置イタナラバ、ソレハ全ク責任ヲ盡サナイモノトナルカラ、少シ八日ノ菖蒲、十日ノ菊タル譏ヲ免レナイガ、學理ノ研究ニハ、季節トイフモノモナカラウカラ、茲ニ本誌ノ一隅ヲ借リテ、少シク辯ジテ置キタイノデアル。實ハ其ノ際列

席セラレタ諸君ノ知ラル、通り、報告ノ時間ガ段々永引イタ爲メニ、私ハ成ル可ク簡單ニトイフ前提デ、前述ノ生活難ト出產率ノ關係ノ所モ、至極簡單ニ述ベ去ツタカラ、私ノ論旨ガ不明瞭ニナリ、不徹底ニ了ツタノカモ知レヌ。ソシテ其ノ爲メニ、遂ニ建部君ノ誤解ヲ招クニ至ツタノカモ知レヌト思フ。ソコデ茲ニハ成ル可ク此點ヲ明カニスルツモリデアルガ、其ノ際ニ引キ合ニ出ス前掲ノ建部君ノ論旨ガ、果シテ實際同君ノ述ベラレタ所ト一致シテ居ルカドウカ、之ガ甚ダ懸念ニ堪ヘヌ。何分私自身ハ其ノ際缺席シテ居ツタノデ、茲ニハ第三者ノ筆記ノ要旨ヲ摘録スルニ過ギナイノデアルカラ、萬一同君ノ言ハナイコトヲ言フタトシテ、業々シキ辯解ヲナスコトニナツタナラバ、ソレハ同君竝ニ讀者諸君ニ對シ申譯ノナイ次第トナルカラ、其ノコト丈ケハ豫メ同君竝ニ讀者諸君ニ御斷リヲシテ置ク。

二

私ハ私ノ論旨ヲ詳細ニ述ブル前ニ、其ノ要點ヲ列舉シテ置イテ、更ニ誤解ヲ起サナイ用意ヲナシ度イト思フ。要點ハ三ツニ別レ、更ニ八ツニ小別セラル、先ヅ第一ニ生活難ニ關スル要點ヲ舉グレバ、左ノ三ツデアル。

一生活難トイフ内ニハ、過去ノ生活ヲ維持スルモ尙ホ困難ダトイフ生活難ト、新ニ求ムル生活ニ對シ困難ヲ感ズルトイフ生活難トノ二種ガアル。

二生活難ノ程度トイフコト、生活難ヲ感ズル程度トイフコト、ハ、異ナル觀念デアアル。

三現代文明ノ進歩ニ伴フ智識ノ普及ニ基キ、漸次一般ニ前記第二種ノ生活難ヲ感ジ、ソシテ又其ノ感ズル度合ガ漸次強クナル。

次ニ第二ニ出産率ニ關スル論旨ノ要點ヲ舉グレバ、左ノ三ツデアアル。

一人口ノ増減ハ、出産率ノ増減以外ニ、死亡率ノ増減ニヨル。

二生活難ニ伴フ出産率及ビ結婚率ノ減少ハ、何レノ國ニ於テモ、社會ノ上層ニ始リ、漸次中層下層ニ及ブ傾向ガアル。

三現代文明ノ進歩ニ伴フ智識ノ普及ニ基キ、出産率及ビ結婚率減少スルモ、同時ニ死亡率ノ減少ニヨリ、必ズシモ人口ノ増減ニ影響アルトハ限ラス。

最後ニ第三ニ生活難ト出産率ノ減少トニ關スル論旨ヲ舉グレバ、左記ノ二ツデアアル。

一出産率竝ニ結婚率減少ノ原因ハ、唯獨リ生活難ノミテナイ、又時ト處ニヨリ、現代文明ニ伴フ出産率竝ニ結婚率減少ノ諸原因ニ大小強弱ノ別ガアル。

二然シ現代文明ノ發達ニ伴フテ、何レノ國ニ於テモ、早晚生活難ガ出産率竝ニ結婚率減少ノ原因(人口減少ノ原因ニ非ズ)タル重味ヲ加フル傾向ガアル。

以下順次之ヲ説明シテ以テ、私ノ論旨ノアルトコロヲ了解シテ戴キ、合セテ建部君ニ對スル答辯ニ代ヘ度イト思フ。

三

方今文明國ニ於ケル略ボ共通ノ現象タル生活難ノ内ニハ、二種ノ生活難ガアル其ノ一ハ、過去ノ生活程度ヲ維持スルニ就テモ尙ホ困難ダトイフ意義ノ生活難デアル。其ノ二ハ文明ノ進歩ニ伴フ慾望増進ノ結果、新ニ求ムル生活ニ對シ困難ヲ感ズルトイフ意義ノ生活難デアル。然ルニ文明國ナレバナルホド、此内文明ノ進歩ニ伴フテ生ズル第二種ノ生活難ガ益々著シクナル。ソレガ其ノ當人ニ對シテ、向上發展ノ猛志ヲ懷カシムルニ至ル積極的原因ニモナルガ、ソレガ又家族制限トカイフヤウナ消極的態度ヲ採ラシムル基ニモナル。確カルロア、ボリユーダト思フ、他國ニ

於テモ然ルガ如ク佛蘭西ニ於テモ、生活程度ノ上昇ガ常ニ出生率減少ノ一原因ヲ成シテ居ルト言ツテ居ル。生活程度トイフコトハ、絶對的ノモノデナク、相對的ノモノデアルカラ、永久ニ限度トイフモノガナイ。ソシテソレガ又現代智識ノ普及ト發達ニヨリ、何人モ之ガ上昇ヲ希望スルコトニナルモノデアルカラ、現在ハ之ガ微力ナ國デアツテモ、將來ソレガ有力ナル一般の原因トナリハシナイカト思ハル。現ニ北米合衆國デスラモ、今尙ホ歐洲ヨリノ移民ガ盛ンデアルカラ、全體ニ於テハ、人口ハ年々増加ノ一方デアルガ、其ノ渡來ノ移民ガ、渡來ノ當時ハ、故國ニ比ベテ生活容易デアルカラ、家族制限ナドイフコトヲ一向考ヘナイガ歲月ヲ重テテ亞米利加ノ生活ニ慣ル、ニ從フテ、段々生活ノ困難——即チ第二種ノ生活難——ヲ感ズルヤウニナルカラ、ソコデ又段々ニ家族制限ヲヤルヤウニナリ、古イ亞米利加人ホド、出生率ヤ結婚率ノ減少著シイトイフコトデアル。

四

次ニ何レノ國デモ又何レノ社會デモ、生活難ノ程度ト、生活難ヲ感ズル程度トハ違フ、茲ニ生活難ノ程度トイフノハ、主トシテ物質的ノ方面カラ、客觀的ニイフノデ、

又茲ニ生活難ヲ感ズル程度トイフノハ、主トシテ精神的ノ方面カラ、主觀的ニイフ
ノデアル。ソコデ、此ノ二ツガ違フ。例令バ、我國デモ、下等社會ヨリモ中等社會——殊ニ
所謂ル新中等社會——ノ方ガ側カラ見ルト、生活難ノ程度少イヤウニ思ハル、シ、收
入ナドノ點カラ言フト、當ニ然ル可キ筈デアルト思ハル、ガ、實際生活難ニ苦シム
程度ガ、全ク反對デアルトイフノハ、下等社會ヨリモ、中等社會ノ方ガ、生活程度ガ高
イ以上ニ、生活程度ヲ維持シヤウ、若シクハ之ヲ上昇セシメヤウトイフ念慮ガ強イ
カラ、ソコデ、自カラ生活難ヲ感ズル程度ガ強クナルカラデアアル。斯様ナ譯デアルカ
ラ、同ジヤウニ生活困難ナル國デモ、現代文明ノ進ンダ國デハ、然ラザル國ヨリモ、生
活難ヲ感ズルコトガ強イ、ソレト同ジ理屈デ、同ジ國ノ同ジ社會——社會階級——デモ、
智識ノ程度ノ進ンダ社會ノ方ガ、然ラザル社會ヨリモ、同ジ生活難ヲモ感ズル度合
ガ強イ、デアアルカラ、此ノ感應ノ強イ國、社會、社會階級、若シクハ社會階級ノ部分ニ於
テ先ヅ第一ニ出產率ノ減少トカ、結婚數ノ減少トカ、現ハレテ來ル、ノデアアル。デア
ルカラ、又如何程世界全體ニ生活難トナツテモ、一時ニ世界全體ニ家族制限ナドイ
フ現象現ハレナイシ、ソレト同ジ道理デ、同ジ一國內ニモ、同ジ一國內ノ同ジ社會階

級ニモ同時ニ同ジ程度ニ於ケル家族制限ハ起ツテ來ナイ。ガ然シ、此道理カラ考ヘ
タナラバ、現代文明ノ發達ニ伴フ現代智識ノ普及ニ基イテ、漸次生活難ヲ感ズル範
圍モ擴ガリ、其ノ程度モ加ツテ、現代文明ノ刺戟ノ強イ方面カラ、漸次他ノ方面ニマ
デモ生活難ニ基ク家族制限ノ風潮ガ波及スルモノダト思ハレル。

斯様ナ譯デアルカラ、私ハ假令ヒ生活難トイフコトガ、世界一般ノ現象デアツタ
ニシテモソレガ爲メニ、現在何レノ國デモ、又何レノ社會デモ、皆一齊ニ且ツ同ジ程
度ニ於テ、ソレガ出產率ヤ結婚率減少ノ原因ニナツテ居ルト言フノデナイ唯ソレ
ガ現代文明ノ進ンダ國又ハ社會——社會階級——ニ著シクナツテ來タトイフコトハ、
ソシテ其ノ現代文明ナルモノガ、現社會組織ニシテ更ラナイ以上、何レノ國デモ、何
レノ社會ニモ、漸次普及シ來リ、増長シ來ルモノデアルカラ、シテ見ルト、之ガ出產率
減少ニ關スル一ツノ、一般的原因トナル運命アルモノダト信ズルノデ、從テ又我國
ニモ早晚斯様ナ一原因ヲ見ルニ至リハシナイカト思ハレルノデアアル。

五

成程、今日マデノ各國ノ統計ノ結果デハ、無智識階級ヨリモ、智識階級下等社會ヨ

リモ上流社會、資産ナキ階級ヨリモ資産アル階級、勞働者貧民ヨリモ資本家富豪ノ方ガ却テ出產率ノ減少著シイ。ソコデ兎角、貧乏人ハ子澤山デアルトカ、貧乏人ハ子寶デアルトイフコトガ、日本デモ、西洋デモ、等シク事實ニ相違ナイガ、ソレハ生活難ノミガ文明國ニ於ケル出產率減少ノ原因デナイ、他ニ尙ホ有力ナル諸原因アルコトヲ示スノデ、又生活難ガ出產率減少ノ原因ヲナス場合ニモ、生活難ノ程度ガ其ノ原因デナク、生活難ヲ感ズル程度ガ其ノ原因デアルコトヲ證スルモノデ、生活難ト出產率ノ減少ノ間ニ、徹頭徹尾無關係デアルコトヲ證明スルモノデハナイ。

然ルニ生活難ヲ感ズル程度トイフモノハ、全ク智識ノ程度ニヨルモノデ、從テ又大體教育ノ程度ニヨルモノデアル。ソコデ現代文明ノ普及ニヨリ、教育ノ程度ガ進ミ、智識ガ啓發セラル、ト、今マデト同ジ收入デアツテモ、又ソレハ今マデモ既ニ生活難デアツタニシテモ、生活難ヲ感ズル程度ハ強クナツテクル。之ガ現今何レノ國ニ於テモ、未ダ下等社會ニ現ハレナイ、出產率ノ減少竝ニ結婚率ノ減少ガ、却テ中等社會若クハソレ以上ノ社會ニ現ハル、所以デアルガ、然シ此理ヲ考ヘタナラバ、將來現代文明ノ進步發達ニ伴フテ、下等社會ニ於ケル教育ノ程度ガ進ミ、智識ノ程度

ガ進ムト同時ニ、又現代文明ノ刺戟ガ現在ノ如ク此後モ次第ニ加ツテ來ルコトハ、到底免レナイ自然ノ趨勢デアルカラ、下等社會ニ於ケル生活難ヲ感ズル程度ガ昂進シテクル、ソコデ其ノ社會ニモ亦今日現ニ新中等社會ニ見ルガ如キ結婚數ノ減少ヤ、出生率ノ減退ヲ見ルニ至ルコトヲ覺悟セテバナラス。

人間モ色々デアリ、世ノ中モ様々デアアル、體慾ト情慾ト現在慾トノ三ツガ、人間慾望ノ殆んど全部ヲ組織シテ居ルトイフ單純ナ幼稚ナ思想ノ社會ヤラ國民デハ、情慾ヲ制スル他ニ有力ナ或ル物ガナイカラ、割合ニ結婚モ早イシ、無意識ニ多産モスル、殊ニ現時ノ我國ノ如キ、現代教育ノ普及從テ現代智識ノ普及、未ダ甚ダ到ラザル國デハ、下等社會ハ、物質的ニ貧弱デアルト同時ニ、又精神的ニ貧弱デアルカラ、兎角貧乏人ハ馬鹿正直ニ又向フ見ズニ、多子多難ヲ敢テスルノデアアル。勿論、此ノ如キ社會ヤラスノ如キ時代ニハ、同時ニ生ンダ子、生レヤウトスル子ノ死亡率モ多イカラ、割合ニ成身スル子供ハ少イガ、ヨシ成身シテモ、別ニ多クノ教育ヲ與フルトカ、相當ノ財産ヲ分配シテヤラウトイフヤウナ、別ニ六ヶ敷イ考アルノデナイカラ、智識階級カラ見ルホド、苦ニセナイシ、又苦ニモナラス。獨リデ起居自由ニナルマデ育ツレ

バ、其後ハ直グ放リ出シテ、一家收入ノ源ニ供スルカラ、或ル場合ニハ、却テ子供大勢
デアツタガ爲メニ、両親ガ樂ヲスルトイスコトモアル位ダ。別シテ下等社會デハ、妻
モ亦勞働シテ相當ノ收入ヲ得ルカラ、結婚ヲシテモ、子供ノ生ル、マデハ、家計ハ却
テ裕ニナルトイフ場合ガ間々アル。然シ其ノヤウナ社會デモ追々開ケテキテ、生活
態ガ進ムコトニカルト、何時マデモ左様ナ暢氣ナ態度ガ續カナクナル。其ノ上ニ、世
ノ中ガ進ンデクルト、工場法トカ、義務教育トカイフ法制ガ加ハツテキテ、女子供ノ
勞働ガ制限セラル、一方ニ、一定ノ年齢ニ達スルマデハ、是非共子供ヲ學校ヘ遣ラ
テバナラヌコトニモナル。ソウナルト、多子多産ガ即チ多子多難ニナル。下等社會ノ
男女モ今マデヨリハ幾分熟考セテバナラヌコトニナル。前年我國ニ來タコトモア
ル英吉利ノウエツプノ報告ノ一節ニ、英吉利其他ノ國ノ工場法ニ於テ、女子勞働者
ニ對シ、出産後一定期間就職ヲ禁ズルコトガ彼等ノ社會ニ於ケル出産率減少ノ一
原因ヲ成スニ至ツタ傾向ガアルト言ツテ居ル。之ハ人情當ニ然ル可シダト思ハル
ル。

六

勿論貧富トイフコトハ、比較ノ問題デアアル。賢愚トイフコトモ、相對的ノモノデア
ルカラ、一般ニハ國富ガ増進シテモ、貧富ノ差ハ永久止マナイ。又一般ニハ教育ノ程
度ガ進シデモ、賢愚ノ別ハ永世存スルデアラウ。デアアルカラ、何ツノ世ニナツテモ、下
等社會ヨリモ上流社會、無資產者階級ヨリモ、有資產者階級、田舎ヨリモ都會、無識者
社會ヨリモ有識者社會ニ於テ、結婚率モ、出生率モ減ズルコト著シイトイフ此對照
ハ、現社會組織ノ下ニ於テ、沒ス可カラザル現象デアラウ。サリナガラ、現代文明ノ特
徴トシテ、其ノ發達進歩ト與ニ、一國社會ニ於ケル富ノ不平均ガ益々甚シカラント
スル其ノ勢ト反對ニ、一國社會ニ於ケル智識ノ平均ガ漸ク得ラレテクル。少クトモ
財産ノ不平均ガ甚シクナル程ニ、智識ノ不平均ガ甚シクナラナイ。ソコデ將來ノ社
會ハ、智識ノ平均ガ得ラレテクル丈ケ、生活ノ平均ヲ得ヤウトスル欲求ガ盛ンニナ
ルニ、事實ハソレト反對ニ益々生活ノ平均ガ得ラレナクナルカラ、ソコデ下級社會
デモ、田舎者デモ、晩婚、避婚以外ニ、尙ホマルサスノ所謂ル「豫防的制限」Preventive Check
ナルモノヲ敢テスルヤウニナリ、是レマデノ如キ、多子多難ヲ避ケテ、「數ヨリモ質」ト

イフ考ヤ、子ヨリモ親、生ル、子ヨリモ生ンダ子トイフ考ガ、一般ノ氣風ニナルデア
ラウ。又更ニ一段進ムトイフト、女ノ方ガ、母タルヨリ妻、妻タルヨリ女、女タルヨリモ
人タルコトヲ欲スル氣分ノ増長ヲ起スシ、女ノ方ガ斯様ノ態度ニナルト、男ノ方デ
モ、亦同ジャウナ氣分ニナツテ、次第ニ結婚率ノ減少ヲ促シハシナカラウカ。斯様ナ
コトニナラナイマデモ、前申シタ一般の氣風ガ幾分デモ生ズルコトニナルト、出產
率竝ニ結婚率ノ減少ガ、是レマデノ如ク、社會ノ一部ニ限レル現象デナクテ、程度ニ
於テ、コソ、何時マデモ差アレ、社會ノ全部ニ發スル現象トナルデアラウ。勿論、人間ガ
如何ホド伶俐巧ニナツテモ、絶對ニ情慾ヲ制スルコトハ出來ナイカラ、生活慾ノ増進
ガ、情慾ヲ制スルトイフニモ、自カラ程度ガアルガ、情慾ヲ充スノ方法ガ變ツテ來テ
正式ノ結婚ニヨラザル他ノ方便ニヨルコトノ流行ヲ見ルニ至リハシナイカ。其ノ
結果ガヤハリ死產ノ増加ヲナシ、又出產率減少ノ基ヲモナスノデアアル。

七

斯様ナ譯デアアルカラ、マルサス時代ノ人口論ト、今ノ人口論トハ、其ノ人口論ノ立
論ノ基礎ガ違ツテキタ。其ノ違ツテ來タ點ガ、昔ノ人口論ハ人口ガ益々増加スルト

イフ所カラ來ル悲觀論デアツテ、今ノ人口論ハ人口ガ益々減少スルトイフ所カラ來ル悲觀論デアルトイフ丈ケデナイ。又昔ノ人口問題ハ、食物ノ不足ヨリ生ズル問題デアツタガ、今ノ人口問題ハ、金錢ノ不足ヨリ生ズル問題デアルトイフ丈ケデモナイ。今ノ文明國デハ、一般トシテ、國富日ニ月ニ増進スル一方デアルシ、又金ノアル社會ニハ益々金ガ殖ユル一方デアルガ、金ノナキ社會ハ愈々金ニ窮スルト同時ニ、智識ガ次第ニ増進スルトイフ、一方ノ減少、他方ノ増加、コノ二者合成ノ結果ニ成ル新人口問題ナノデアル。富ノ分配ガ、益々不平均ニナル如クニ、智識ノ分配モ益々不平均ニナルモノナレバ、如何程、現代文明ガ進歩發達シテモ、全體トシテハ、出生率ノ減少ヲ見ナイカモ知レナイシ、又假令ヒ出生率ノ減少ヲ見ル場合ガアツテモ、ソレハ出生率ノ減少ヨリモ、死亡率ノ増加ニ由ル人口ノ減少デアラウ。然ルニ實際ニ於テ、現代文明ノ特色ハ左様デナクテ、何レノ文明國デモ、今ノ儘デハ、財産上ノ懸隔ハ益々甚シクナルガ、智識上ノ懸隔ハ益々減ジテクル。少クトモ、貧富ノ懸隔ホドノ賢愚ノ懸隔ガナクナル。ソコデ、財産ニ於テ是レマデヨリモ貧弱ナルモノガ、益々社會ノ大部分ヲ占メテクル一方ニ、智慮ニ於テ今迄ノ如ク貧弱ナラザルモノガ、又益々

社會ノ大部分ヲ占メテクルカラ、社會ノ大部分ニ於ケル生活難ノ増進ト、生活慾ノ増進トガ相俟ツテ、出産難ヲ來タサシメ、出産率ノ減少ヲ起スコトニナルノデアル。世ニハ斯様ナ社會ノ生活慾ガ進ンデ、出産難ヲ來タサシムルトイフコトハ、假令ヒソレガ爲メニ出産率ノ減少ヲ來タシ、其ノ極、遂ニ人口ノ減少ヲ起スコトアツテモ、一國社會ノ上カライヘバ、少シモ憂フルニ足りヌ、却テ喜ブ可キ現象デアルトイフ議論モアルガ、ソレハ彼ノ「ユーゼニツク」カラ來ル議論デアツテ、此後ノ人口論ハ、量ノ問題ヨリモ、質ノ問題デアルトイフ觀念カラ出ヅルノデアル。然シ「ユーゼニツク」其ノ物ニ就テ、尙ホ研究ノ餘地アルノミナラズ、假令ヒ量ヨリモ質ガ肝要デアルトシテモ、上流社會ノ生ム子供ガ常ニ必ズ優良種デ、下等社會ノ生ム子供ガ必ズシモ劣惡種デアルトイフ斷定ハ出來ヌ。

八

ソレハ兎ニ角、現代文明ノ進歩發達ニ伴フテ、其ノ刺戟ノ加ハルト與ニ、生活難トイフコトガ程度ニ於テ差コソアレ、一般ニ出産率減少ノ一原因タルニ至ルコトハ、否定スル譯ニ行カヌ。ガ然シ、ソレハ出産率ノ減少トイフ結果デ、人口ノ減少トイフ

結果デナイ。社會政策學會デノ報告ノ場合ニモ、私ガ生活難ト出生率ノ減少トノ間ニ、次第ニ因果關係アルニ至ルトイフタノヲ、建部君ハドウ取り違ヘタカ、人口ノ減少ガ生活難ト密接ノ關係アルカノ如ク論ゼラレタ津村說ニハ全然反對ダト言ツタソウデアル、之ハ前ニモ御斷リシテアル如ク、同日大西君ガ擔當セラレタル建部君ノ演說要領筆記ニヨツタモノデアルカラ、或ハ大西君ノ聞キ違ヒデアルカモ知レヌ。神戸デハ同會ノ速記録ヲ一寸拜見スル譯ニ行カナイカラ、若シモ建部君ガ左様ナコトヲ仰セラレタノデ、ナカツタナラバ、之ハ誠ニ恐縮ナル次第デアルガ、建部君ハソウイフ異論ヲ唱ヘタノデナイトシテモ、尙ホ世ニ、ハ左様ナ誤解ヲ懷ク人ガナイトモ限ラヌカラ、此點ヲ一言辯ジテ置ク必要アルト思フ。

事新シク申スマデモナイガ、出生率ノ減少ガ必ズシモ人口ノ減少ヲ伴フモノデナイ、出生率ガ減少シテモ、同時ニ、死亡率ノ減少ヲモ伴フタナラバ、人口ハ必ズシモ減少シナイ、却テ反對ニ人口益々増加スルコトモアルノデアル。然ルニ現代文明國ニ於テハ、現代文明ノ進歩發達ト與ニ、多クノ國デハ、千八百八十年頃カラ、次第ニ出生率ノ減少ヲ見ルニ至ツタガ、同時ニ死亡率ノ減少ヲ見タ爲メニ、全體ニ於テハ、人

口増加ノ勢止マヌ、人口増加率ノ却テ殖ヘタ國サヘアルノデアル。佛蘭西ノ如キデスラム、多少此傾向アルガ爲メ、二十世紀ニ入ツテカラ此方實際人口ノ減少ヲ見タノハ、千九百〇七年ト、千九百十一年ノ二年ノミデアル。

九

尙ホ最後ニ一言シ度イコトガアル。現代文明國ニ於ケル出產率竝ニ結婚率減少ノ原因ハ、主ナルモノ丈ケデモ、一ツヤニツジャナイ、ソレハ建部君ノミナラズ、誰レデモ知ツテ居ル所デアルカラ、茲ニ業々シク列舉スルコトヲ避クルガ、夫等ノ諸原因モ、舊開國デアルト、新開國デアルト、殖民地デアルト、母國デアルト、其ノ他、人情風俗、法律制度ハ勿論、經濟社會ノ發達ノ程度等ノ如何ニヨリ、原因トシテノ力ニ大小強弱ノ別ガアルシ、又之ガ反對ノ諸原因ニモ大小強弱ノ別ガアル。デアアルカラ、其ノ内ノ一原因ガ、假令ヒ一二ノ國ニ於テ微力デアリ、從テ其ノ作用ガ充分ニ現ハレナイデ、或ハ却テ反對ノ結果ヲ現ハス場合ガ、アツタニシテモ、ソレデ以テ直ニ其ノ原因ヲ全然否定スル譯ニハ參ラヌ。

現代文明國ニ於ケル出產率減少ノ一原因タリ又タラントスル生活難ノ壓迫モ、

亦斯様ナ譯デアルガ、現社會組織ニシテ更ラナイ限り、現代文明ノ進歩發達ト與ニ、貧富ノ懸隔ガ益々激シクナル、ソレト同時ニ、生存ノ競争ガ愈々猛烈ニナル一方ニ、人智ガ益々普及シ來ルカラ慾望ノ増進ニ伴フ生活難ノ自覺ハ、絶エ間ナク加ハリ、絶エ間ナク進ミ、絶エ間ナク擴ガル、トイフ自然ノ成行ガ、何レノ國民ニ向ツテモ、何レノ社會ニ對シテモ、漸次出產率竝ニ結婚率減少ノ結果ヲ起サシムル自然ノ運命ヲ成スノデアル、從テ又ソレガ出產率減少ノ一ツノ原因トシテ、次第ニ重味ヲ加フル傾向アルノデアル。

然シ之レアルガ爲メニ、必ズシモ文明國ニ於ケル人口ノ減少ヲ見ルモノダトハ言ハヌ、ソレハ一般ニ早婚ヲ慎ムトカ、多產ヲ慎ムトカ、其ノ他、一般ニ、智慮ガ進ムトイフコトガ結婚率ナリ、出產率ナリヲ減ズル原因トナルト同時ニ又死亡率ヲ減ズル原因トモナルコトアルカラデアル、若シモ斯様ニシテ無暗ニ生マナイガ、又無暗ニ死サナイ勘辨ヲスルコトガ一般ノ民風ニナルト、健全ナル人口ノ増加ヲ來スカラ、必ズシモ文明國ノ前途ヲ呪咀スルコトニハナラナイノデアル。